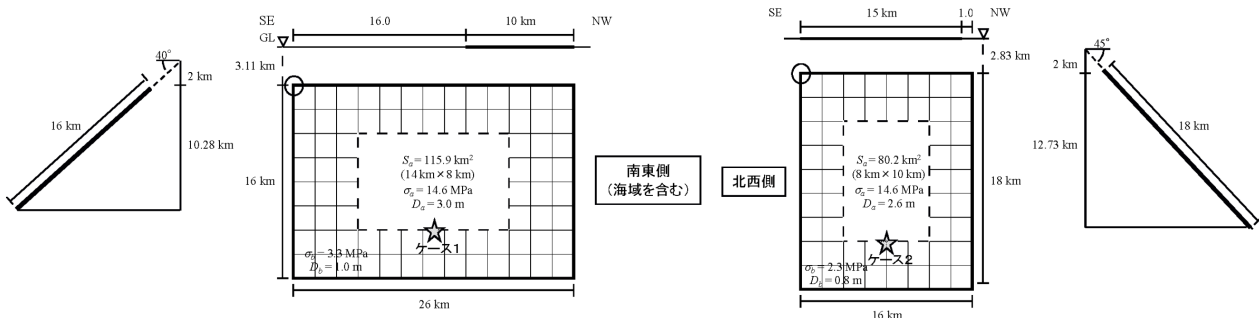


地震諸元

コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_j	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
3601	神縄・国府津－松田断層帯	北－北東側隆起の逆断層	長期評価	7.5 程度	約 25km もしくはそれ以上	20km程度 10-15km程度	40-50 度北傾斜 30-50 度北東傾斜	下限 10km 程度
			モデル化	M_w 6.9	16km 26km	18km 16km	北傾斜 45 度 北東傾斜 40 度	2-15km

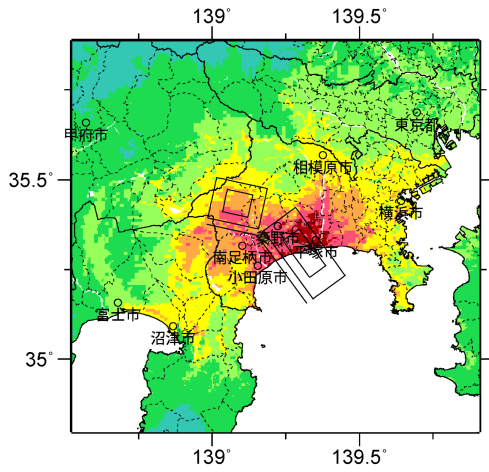
強震動予測のための断層モデルのパラメータ

	長期評価	設定値	
		平均ケース	最大ケース
平均活動間隔	約800年－1300年	1050年	800年
最新発生時期	12世紀以後，14世紀前半以前（西暦1350年以前）	785年前	910年前
30年発生確率	0.2%－16%	4.3%	16%
50年発生確率	0.4%－30%	7.5%	26%
断層帯原点（東半部）	（北西端）北緯 35°22′ 東経 138°59′ （屈曲点）北緯 35°21′ 東経 139°09′ （南東端）北緯 35°17′ 東経 139°13′	—	—
活断層長さ L	約 25 km もしくはそれ以上	— km	—
マグニチュード M	7.5 程度	7.5	—
巨視的震源パラメータ	設定方法	北西部	南東部
断層モデル原点	地中の上端における南東端	北緯 35.3634° 東経 139.1577°	北緯 35.1686° 東経 139.3426°
走向 θ	長期評価の端点を結ぶ方向	N282.3°E	N324.0°E
傾斜角 δ	「40°－50°北傾斜（北西端－屈曲点）」 「30°－50°北東傾斜（屈曲点－南東端）」	45°	40°
すべり角 γ	「北－北東側隆起の逆断層」	90°	90°
断層モデル上端深さ	微小地震の発生と地震基盤深さを参考	2 km	2 km
単位区間長さ L_{seg}	手続き化の方法に従い設定	16 km	26 km
単位区間幅 W_{seg}	手続き化の方法に従い設定	18 km	16 km
単位区間面積 S_{seg}	$S_{seg} = L_{seg} \times W_{seg}$	288 km ²	416 km ²
断層モデル総面積 S_{model}	$S_{model} = \Sigma S_{seg}$	704 km ²	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17M + 10.72$	3.13E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.9	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7/16 \cdot M_0 / R^3$	4.1 MPa	
平均すべり量 D_{model}	$D_{model} = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.4 m	
短周期レベル A	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.67E+19 Nm/s ²	

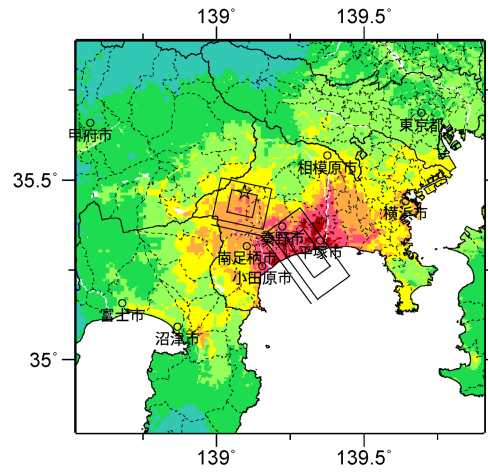


微視的断層モデルとその直交断面

震源断層を特定した地震動予測地図：神縄・国府津－松田断層帯

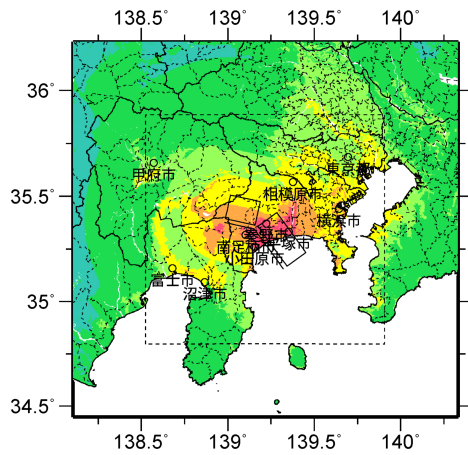
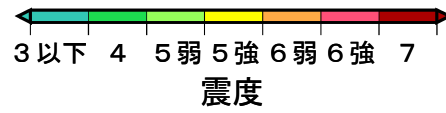


ケース 1



ケース 2

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布

震源断層を特定した地震動予測地図：神縄・国府津－松田断層帯